



学校だより  
ながや

令和元年度 第8号  
令和元年 11月29日  
横浜市立永谷小学校  
校長 平野 好子

子どもたちが自分を振り返り、  
望ましい人との接し方を自ら探ることができるように

校長 平野 好子

平成31年でスタートし、元号が変わり、令和元年が終わろうとしています。

グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、これからの時代は予測困難な時代と言われています。そんな中、未来を担う子どもたちには、自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい未来を切り開いていく力が求められます。学校での日々の学びを通じ、子どもたちが「生きる力」を育むために学習指導要領が改定され、来年度より全面実施となります。

横浜の教育の方向性の中で、「子どもの可能性を広げます」を踏まえ、児童の資質・能力育成のために「三つのつながり」を大切にしています。

- 「授業」のつながり
- 「人」のつながり
- 「学びの場」のつながり

この「人」とのつながりを大切にするために、本校でもあらゆる教育活動の中で、人権教育を日常的に行い、「だれもが」「安心して」「豊かに」の視点で安心・安全な居場所づくりを大切にしています。

道徳科では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、道徳的判断力、心情実践意欲と態度を育てます。次に示すものは、道徳科の内容項目【公正、公平、社会正義】で、子どもが他者とよりよく生きていく上での、学ぶべき道徳的な価値を短い文で表したものです。子ども自らが道徳性を養うための手掛かりにもなります。

低学年 「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること」

中学年 「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること」

高学年 「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」

授業の中では、「わかってはいるけれど、自分はできているだろうか」「できていない自分はこのままでいいのか」「できる自分になるためにどんな考えをもったらいいのか」を考え、語り合います。実行に努めるための教師と子どもの共通の課題です。

「自分とは違う考え方があること」を知ること、「仲良しの友達とあまり親しくない人と自分の接し方に違いはないか」と振り返ること、『違い』を『異質』として排除や忌避するなど、身近に『差別』や『偏見』が存在しているのではないかと考えることで、自分を振り返りながら、人との望ましい接し方を自ら探してほしいと願っています。

12月4日から10日までは、人権週間です。これは、国際連合が、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と定め、我が国では、毎年12月10日を最終日とする1週間を人権週間として定められています。永谷小学校では、3日から6日の4日間を人権週間として取り組みます。

様々な機会をとらえて、自分だけでなく周りの人にとっても安心して安全な居場所をつくることについて、共に考え指導していきます。子どもたちの活躍を心から応援して下さる保護者や地域の皆様には、今後ともご協力・ご支援をよろしくお願ひします。